

展示室1 イギリスの風景画



リチャード・ウィルソン
《キケロの別荘》

イギリスでは、18世紀後半から19世紀にかけて風景画が大きく発展しました。18世紀後半にイギリスに広がった「ピクチャレスク」の美学は、風景に対する人々の意識を大きく変えることとなります。なめらかで整った「美」に対し、荒々しさや不規則性などに美的価値を認める「ピクチャレスク」の感性によって、画家たちは次々に風景をとらえていきました。また同時期、画材の発展に後押しされ、独立した絵画のジャンルとして確立された水彩画は、風景表現の幅をさらに広げました。

豊かな自然に恵まれた風土の中で、自然を愛する画家たちによって育まれた風景画の数々をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ポール・サンドビー	ラン・エガースト修道院またはクルーゼス溪谷とダイナス・ブラン城	1776	アクアチント、エッチング・紙
トマス・ローランドソン	北ウェールズ、カマーゼンの風景、教会へ向かう人々	1790年代初頭	水彩・紙
トマス・ローランドソン	ヘント付近、ローエン駅に着く馬車	1790代	水彩・紙
トマス・ガーティン	テュイルリーの眺め		エッチング、アクアチント・紙
ジョン・クローム	マウスホールド・ヒース、ノリッジ	1810頃	エッチング・紙
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-6頃	油彩・キャンバス
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
ジョン・クローム	ヘレスドンの眺め	1807頃	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョン・コンスタブル	虹、ソールズベリー大聖堂	1834-7	メゾチント・紙
ジョン・セル・コットマン	ルーアン、ラ・ピュセル広場のブルトルルド館	1823	水彩・紙
ジョン・マーティン	フレッシュウォーター・ベイ	1815頃	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	橋と牛		エッチング、メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴータル峠の下り道	1848	水彩・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ネッカー川対岸から見たハイデルベルク	1846	エッチング、ラインエングレーヴィング・紙
デイヴィッド・コックス	川辺の騎手と人物	1850	水彩、鉛筆、チョーク・紙
トマス・マイルズ・リチャードソン・ジュニア	コンウェイ城の日没	1855	水彩・紙
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス

展示室2 日本人画家の肖像



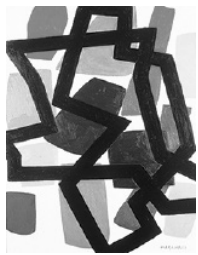
岸田劉生《男之像》

肖像画は洋の東西を問わず、画家にとって重要なテーマです。日本では中国の影響を受けながら、高僧、貴族、武将の肖像画が伝統的に描かれてきました。明治時代になると、従来の日本画表現に西欧風の写実的な技法を折衷する画家が現れ、そのリアルな絵画は驚きをもって迎えられました。写真印刷の普及以前、皇族や政治家の姿を広く伝える役割は版画が担い、江戸時代末に渡来した石版画が活用されます。

明治期までは依頼を受けて作られる肖像画が中心でしたが、大正期に入ると画家の意志による肖像画が多く登場します。自画像や親しい人物の肖像には、姿かたちだけでなくモデルの内面や画家との関係性までもが描きだされています。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
松尾秀山	西洋人物図		墨・紙／対幅
高橋由一	明治天皇・皇后尊影	1892 (明治 25)	水彩・絹／対幅
内田九一	大日本帝国両陛下御尊影	1873 (明治 6)	写真
結城正明	大日本帝国両陛下御尊影	明治 10 代頃	銅版・紙
鹿子木孟郎	馬上の陛下	1905 (明治 38)	石版・紙
合田 清	独逸皇帝フレデリック三世之肖像	1888 (明治 21)	合資商報会社 (印刷) 『日出新報』 明治 38 年 1 月 1 日第 6334 号付録 木口木版・紙 『横浜毎日新聞』 明治 21 年 6 月 22 日第 5253 号付録
岡村政子 (推定)	板垣伯之肖像	1891 (明治 24)	石版・紙 『時事新報』 明治 24 年 6 月 8 日第 3044 号付録
床次正精／山下房親	西郷隆盛肖像	1887 (明治 20)	石版・紙
山本芳翠	園田銚像	1885 (明治 18)	油彩・キャンパス
五姓田義松	園田御令嬢肖像 (園田銚像)	1902 (明治 35)	コンテ・紙
黒田清輝	東久世伯肖像エスキース	1894 (明治 27)	油彩・キャンパス
原 撫松	横山孫一郎像	1899 (明治 32)	油彩・キャンパス
原 撫松	横山勇子像	1899 (明治 32)	油彩・キャンパス
林 重義	顔 (自画像)		油彩・キャンパスボード 武田光司コレクション寄贈
小出楢重	自画像	1918 (大正 7)	油彩・キャンパス
岸田劉生	男之像	1919 (大正 8)	水彩・紙
木村荘八	祖母の顔	1916 (大正 5)	油彩・板
横井弘三	料治朝鳴氏の家族	1940 (昭和 15) 頃	油彩・合板
木村荘八	中島君の像	1916 (大正 5)	水彩・紙
川幡正光	徳坊	1918 (大正 7)	油彩・板 加藤富士子氏寄贈
松山忠三	松山夫人、ホームウッドにて	1923 (大正 12)	水彩・紙

展示室 3 日本の前衛美術 1950 - 60 代を中心に



村井正誠
《いそぢうじん》

第二次世界大戦後、人々は未曾有の人為的破壊や喪失への反省と、精神的ダメージからの回復を目指し、新しい社会のあり方を模索しました。日本の美術界においても、戦中の抑圧から解放された美術家たちが、真の表現の自由を求めて様々な表現の可能性を試みます。1950 年代から 60 年代にかけては、海外の前衛的な美術表現が紹介されて大きな反響を呼ぶなど、美術界においても本格的な国際化の時代を迎えました。また、美術家たちにとって、紛争や高度経済成長に起因する社会矛盾も大きな関心のひとつとなりました。社会を見据えながら、社会といかに関わり、美術家としてどう表現するか。そうした制作者の真摯な姿勢に裏打ちされた作品は、今を生きる私たちにも多くを語りかけてきます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
浜田知明	初年兵哀歌 (山を行く砲兵隊)	1953 (昭和 28)	エッチング、アクアチント・紙
高山良策	無題 2	1962 (昭和 37)	鉛筆、クレヨン・紙
高山良策	無題 3	1962 (昭和 37)	鉛筆、クレヨン・紙
鎌田正蔵	「アリス・ハーズ夫人に捧ぐ」より	1969 (昭和 44)	フェルトペン、アクリル、インスタントレタリング・紙 鎌田正蔵氏寄贈
佐藤昭一	廃坑	1956 (昭和 31)	油彩・キャンパス 佐藤昭一氏寄贈
難波田龍起	建物の構成	1954 (昭和 29)	油彩・キャンパス
佐藤 敬	石の対話	1958 (昭和 33)	油彩・キャンパス
堂本尚郎	1962-18(二元的なアンサンブル)	1962 (昭和 37)	油彩・キャンパス
今井俊満	コンポジション 23	1959 (昭和 34)	油彩・キャンパス

作者名	作品名	制作年	技法・材質
土橋 醇	小さな村	1955 (昭和 30)	油彩・キャンバス
瑛九	構図	1957 (昭和 32)	エアブラシ・合板 武田光司コレクション寄贈
村井正誠	いそぐ人	1956 (昭和 31)	油彩・キャンバス
オノサト・トシノブ	64-G	1964 (昭和 39)	リトグラフ・紙
覬謳	テル・ミー・ナウ	1966 (昭和 41)	シルクスクリーン・紙
山口長男	コラージュ I	1950-51 (昭和 25-26) 頃	コラージュ・紙
山口長男	コラージュ II	1950-51 (昭和 25-26) 頃	コラージュ・紙
斎藤 清	HANIWA(2)	1951-54 (昭和 26-29) 頃	木版・紙
斎藤 清	青沼、裏磐梯、会津	1955 (昭和 30)	木版・紙
駒井哲郎	コレクション・ド・ラ・メール 1、2		水彩・紙
駒井哲郎	鳥と果実 (小)	1959 (昭和 34)	エッチング、サンドペーパーによるエッチング・紙
斎藤寿一	波と月 (B)	1964 (昭和 39)	ディープエッチング・紙 斎藤聆子氏寄贈
佐藤忠良	群馬の人	1952 (昭和 27)	ブロンズ
堀内正和	顔	1955 (昭和 30)	鉄、セメント

展示室 4 版画・いろいろ



ロバート・ギビングス《チューリップ》

版画は版に絵柄を施し、紙などに写し取る方法によって作られます。複数性があるため、版画は本の挿絵をはじめ、古くからいろいろな用途に使われてきました。

版種には木版、銅版、石版、シルクスクリーンなど様々あり、技法も多岐にわたっています。近代以降には、それぞれの性質を生かした版による芸術表現が開き、個性を競いました。

今回は、当館の版画のコレクションから幅広いジャンルの作品をご紹介します。多種多様な「版」の世界をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
トマス・ビューイック	野生の牝牛	1789	木口木版・紙
フレデリック・レイトン	帰宅		木口木版・紙
フレデリック・レイトン	流れゆく	1889	木口木版・紙
ロバート・ギビングス	チューリップ	1922	木口木版・紙
エリック・ギル	『木版画集』	1924	木口木版・紙 / 本
ウィリアム・ホガース	性格と戯画	1743	エッチング・紙
ジョン・マーティン	光の創造	1825	メゾチント・紙
サミュエル・パーマー	囲いを開く (早朝)	1880	エッチング・紙
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	バルコニー、アムステルダム	1889	エッチング・紙
スタンリー・ウィリアム・ヘイター	緑陰	1963	エッチング、スクレイパー・紙
ロバート・ベヴァン	パービカンの馬商人 (パービカン No.2)	1921	リトグラフ・紙
リチャード・ハミルトン	フラワー・ピース B	1976	リトグラフ・紙
山本芳翠 (画)、合田 清 (刻)	磐梯山噴火真図 『東京朝日新聞』明治 21 年 8 月 1 日第 1095 号付録	1888 (明治 21)	木口木版・紙
柄澤 齋	『死と変容 I 夜』	1988 (昭和 63)	木口木版・紙
吉田 博	神の島	1930 (昭和 5)	木版・紙
川上澄生	夜の銀座	1929 (昭和 4)	木版・紙
吉田穂高	私のコレクションよりー白い家、N	1979 (昭和 54)	木版・紙
長谷川潔	シャトー・アルヌーの寺院	1932 (昭和 7)	メゾチント・紙
中林忠良	転位 '90ー地ーI	1990 (平成 2)	エッチング、アクアチント・紙
東谷武美	ペピーノの美	1988 (昭和 63)	リトグラフ・紙
斎藤義重	ペンチ	1968 (昭和 43)	シルクスクリーン・紙
木村利三郎	City 386	1985 (昭和 60)	シルクスクリーン・紙

展示室4 やきもの鑑賞



クリストファー・ドレッサー
《彩色金彩花模様水差》

私たちの生活の中で身近にあるやきものといえば、毎日使う食器や花瓶などでしょうか。土をこねて造形し、火で焼き固めたやきものは、土の成分や焼く温度などの違いで表情が変わり、産地ごとにブランドとして区別されることもあります。絵付けや釉薬もさまざまな表情を与えてくれる要素です。

今回は、所蔵作家でイギリス人工芸デザイナーのクリストファー・ドレッサーの作品の中から、やきもの作品をご紹介します。金属器のデザインでよく知られるドレッサーですが、ミントンやウェッジウッドなど現代まで続くイギリスを代表するブランドのデザインも手がけています。美しい器に何を盛り付けるか、想像しながらご覧いただくのも楽しいのではないのでしょうか。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
クリストファー・ドレッサー	青緑釉水差	1879-82 頃	陶器	リンソープ社
クリストファー・ドレッサー	青釉水差	1879-82 頃	陶器	リンソープ社
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉水差（一対）	1892-95 頃	陶器	オールト・ポタリー社
クリストファー・ドレッサー	刻文舟形容器	1892-95 頃	陶器	オールト・ポタリー社
クリストファー・ドレッサー	紅地線文把手付花瓶（一対）	1892-95 頃	陶器	オールト・ポタリー社
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉アールヌーヴォー風装飾文皿	1892-95 頃	陶器	オールト・ポタリー社
クリストファー・ドレッサー	緑釉山羊面四耳壺	1892-95 頃	陶器	オールト・ポタリー社
クリストファー・ドレッサー	緑釉球形花生	1892-95 頃	陶器	オールト・ポタリー社
クリストファー・ドレッサー	橋型二重注口人面壺	1879-82 頃	陶器	リンソープ社
クリストファー・ドレッサー	褐釉瓢箪型花瓶	1879-82 頃	陶器	リンソープ社
クリストファー・ドレッサー	水差「ラクダの背」	1879-82 頃	陶器	リンソープ社
クリストファー・ドレッサー	うに形容器	1879-82 頃	陶器	リンソープ社
クリストファー・ドレッサー	黄釉竹節型小皿	1879-82 頃	陶器	リンソープ社
クリストファー・ドレッサー	緑釉蓮花刻文皿	1879-82 頃	陶器	リンソープ社
クリストファー・ドレッサー	色絵花鳥模様壺	1892-95 頃	陶器	オールト・ポタリー社
クリストファー・ドレッサー	色絵蝶花模様瓢箪形壺	1892-95 頃	陶器	オールト・ポタリー社
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様大皿	1886	陶器	オールドホール・アーサンウェア社
クリストファー・ドレッサー	色絵草花文隅切角皿	1886	陶器	オールドホール・アーサンウェア社
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩ロータス文大皿		陶器	ウエッジウッド社
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩花模様水差		磁器	ミントン社
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩竹梅文水差		磁器	ミントン社
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様皿とボウルのセット	1886	陶器	オールドホール・アーサンウェア社
クリストファー・ドレッサー	緑釉サラダボウル（サーバー付き）	1879-82 頃	陶器、金属、電気メッキ	リンソープ社
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様隅切角皿	1886	陶器	オールドホール・アーサンウェア社
クリストファー・ドレッサー	色絵椿文龍花瓶（一対）	1886	陶器	オールドホール・アーサンウェア社

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
笠置季男	躍進	1958（昭和33）	セメント
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒
●2階展示ロビー			
木内 克	露柱	1976（昭和51）	テラコッタ
西 常雄	藤原義江像	1971（昭和46）	ブロンズ
柳原義達	黒人の女	1956（昭和31）	ブロンズ
高田博厚	アラン像	1932（昭和7）	ブロンズ
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ